

一 (評論) 採点基準 (合計1150点)

問一 3点×4=12点

(解答) a ニ b ロ c ハ d ロ

問二 8点

(解答例)

A○1点

B○2点

マルサスの「人口論」の「人口過剰」と「経済的弱者の淘汰」という考え方を、

C○3点

D○2点

ガラパゴス諸島で目撃した奇怪な爬虫類の存在に結びつけて作り上げた。(8点)

■各加点要素の加点の条件

A 「マルサスの「人口論」の」(1点)

○ 「マルサス」か「人口論」があれば○。

B 「「人口過剰」と「経済的弱者の淘汰」という考え方を」(2点)

○ 「人口過剰」と「経済的弱者の淘汰」両方そろって○。

C 「ガラパゴス諸島で目撃した奇怪な爬虫類の存在に」(3点)

① 「ガラパゴス諸島で目撃した」で1点。「ガラパゴス諸島」が入っていれば1点得点。

② 前の①に加えて、「奇怪な爬虫類」が入っていれば○で2点

D 「結びつけて作り上げた」(2点)

問三 5点

(解答) ハ

問四 2点×2＝4点

(解答) X 二 Y 口

問五 5点

(解答) 意識すらも備えた強いA I

※抜出問題のため、これ以外は不可✖。

問六 8点

(解答例)

A ○1点 B ○2点

C ○3点

人間は、人間の能力を遙かに越える機械を次々と開発してきたが、どんなことにも対応できると  
D ○2点

いう柔軟な「知能」だけは、機械には譲れない人間に最重要なものとして固く守ってきたという

こと。 (8点)

■各加点要素の加点の条件

A 「人間は」 (1点)

○ 「人類」でも○。

B 「人間の能力を遙かに越える機械を次々と開発してきたが」 (2点)

① 「人間の能力を遙かに越える」で1点。

ただし、②がない場合は無得点。

② 「機械を次々と開発してきた」で1点

C 「どんなことにも対応できるといふ柔軟な「知能」だけは」 (3点)

① 「どんなことにも対応できる」で1点。 「汎用性」と言い換えたものも1点。

ただし、②がない場合は無得点。

② 「柔軟な「知能」だけは」で1点

○ ①と②がそろって○3点。

D 「機械には譲れない人間に重要なものとして固く守ってきた」 (2点)

- ① 「(機械には) 譲れない」で1点。  
② 「(人間に重要なものとして) 固く守ってきた」あるいは単に「守ってきた」でも1点。

問七 4点×2＝8点

(解答) 口・二

〔二〕(評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 復興 2 論断 3 遍歴 4 早世(早逝)

問二 6点

(模範解答例)

A ○3点 B ○3点

報酬を得て 生計を成立させるための職業。 (6点)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：二〇字以内 九字以下のものは全体不可(0点)

■各加点要素の加点の条件

A 「報酬を得て」(3点)

- ✖ 「報酬」についての指摘のないものは、要素A加点なし ✖0点。
- 「給料をもらい」「報酬を目的として」などでも○。

B 「生計を成立させるための職業」(3点)

- ✖ 「生計のための手段」であることについて説明していないものは、要素B加点なし ✖0点。
- 「生活に必要なための職業」などでも○。

問三 8点

(模範解答例)

A ○2点

目的合理的行為と価値合理的行為とする二つの合理的行為の概念は、

B ○3点 C ○3点

実際には「二つの合理的行為の 両面を捉えた区分であるから。(58字) (8点)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素C照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：六十字以内 **二十九字以下のものは全体不可**（0点）

■各加点要素の加点の条件

A「目的合理的行為と価値合理的行為とする二つの合理的行為の概念は」（2点）

- ※傍線部直前の「これら」の内容について説明していないものは要素A加点なし **×0点**。

B「実際には一つの合理的行為の」（3点）

- ※要素Aの二つの合理的行為にはそれぞれ逆の側面があることから、それらが一つの行為であるということを説明していないものは要素B加点なし **×0点**。（↓Aが○でないとBは○にならない）

C「両面を捉えた区分であるから」（3点）

- ※要素Aの二つは要素Bの両面であるということを説明していないものは、要素C加点なし **×0点**。（↓Bが○でないと、Cは○にならない）

問四 4点

（解答） ホ

問五 12点

（模範解答例）

A ○3点

近代資本主義精神の起源について、

C ○3点

実は、人間は自己をデザインできる存在であると考える点で

B ○3点

ウェーバーとブレンターノの考えは一見対立するように見えるが、

D ○3点

似通っている。（80字）（12点）

■形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：八〇字以内 **三九字以下のものは全体不可**（0点）

■各加点要素の加点の条件

- ※各要素同意表現可。

A 「近代資本主義精神の起源について」(3点)

※ 「近代資本主義精神の起源」についての論争であることを説明していないものは要素A加点なし ※0点。

B 「ウェーバーとブレンターノの考えは一見対立するように見えるが」(3点)

※ 要素Aは、ウェーバーとブレンターノの対立する考えによるものであるということを説明していないものは要素B加点なし ※0点。

C 「実は、人間が自己をデザインできる存在であると考える点で」(3点)

※ 自己をデザインできる人間という存在について説明をしていないものは要素C加点なし ※0点。

D 「似通っている」(3点)

※ ウェーバーブレンターノは要素Cについて似ているということを説明していないものは要素D加点なし ※0点。

問六 12点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

C ○3点

D ○3点

職人技が発揮される仕事ではプライドを感じられるが、 職業の形態の変化に伴ってそれは難しくなっ

ていく、とはいえ、 そもそも人間は自己の人生をデザインする存在であるという点で、 究極のプライドを

もつと考えている。(100字) (12点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数：一〇〇字以内 四九字以下のものは全体不可(0点)

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「職人技が発揮される仕事ではプライドを感じられるが」(3点)

※第3段落から、職人のプライドについて説明していないものは要素A加点なし ※0点。  
(質の高い・よい仕事をしようとする習性・本能・プライドをもって、職人技を発揮して仕事をする など)

B 「職業の形態の変化に伴ってそれは難しくなっていく、とはいえ」(3点)

※第5段落から、要素Aのあり方が難しくなっていくということの説明していないものは要素B加点なし ※0点。  
(職人仕事工場労働になると職人のプライドを持った仕事はしにくい など)

C 「そもそも人間とは自己の人生をデザインする存在であるという点で」(3点)

※後半から、ピコ・デッラ・ミランドラ、ブレンターノ、ウエーバーに共通する「人間は自己をデザインする存在」ということについて説明していないものは要素C加点数なし ※0点。

D 「究極のプライドをもつと考えている」(3点)

※要素Cから、それが究極のプライドであることを説明していないものは要素D加点数なし ※0点。

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×4＝4点

(解答) a かみ b こうし c かいまみ d すずり

「ポイント」

※ひらがな・現代仮名遣いでなくてはならない。

a ✖ 「もり」「まもり」「しゅ」等

b ✖ 「かうし」等

c ✖ 「かきまみ」「のぞきみ」等

d ✖ 「じしみ」等

問二 2点×3＝6点

(解答) ① イ ② ホ ③ ニ

問三 3点×3＝9点

(解答) 甲 ホ 乙 ロ 丙 ハ

問四 2点×4＝8点

(1) (解答例) 2点

出家し

「ポイント」

※「様を変へ」の現代語訳

○ 「出家して・出家する」などでもよい。

(2) (解答例) 2点

かわいらしい感じである

「ポイント」

※「らうたげなる」の現代語訳

○ 「かわいい・愛らしい」などの意が読み取ればよい。

✖ 「おさない」は✖。



(3) (解答例) 2点

翌朝

「ポイント」

※「つとめて」の現代語訳

○「早朝」でもよい。

△「翌日」は△で1点。

(4) (解答例) 2点

すぐに

「ポイント」

※「やがて」の現代語訳

○「そのまま」でもよい。

問五 3点

(解答) 弁の君

「ポイント」

※傍線部の「この人」を本文から抜き出す

※「弁の君」以外は全て✕。

問六 3点×2＝6点

B (解答例) 3点

A ○1点

B ○2点

何とも言えず 優美であった。

「ポイント」

○句読点の有無は不問。

A 「何とも言えず」(1点)

※「えもいはず」の現代語訳

○「言いようもなく・言いようもないほどに」などでもよい。

※「表現しようがないほどに」の意にとれない「何も言わず・何も言えずに」などは✕。

B 「優美であった」(2点)

※「飽かず」の現代語訳

① 「優美だ・美しい」の意、それに順ずる意があれば【1点】。「妖艶であった」などでも○。

② 右の①の意がある上で「たり」の完了・存続の意「した・していた・している」の意もあれば【2点】。  
(「優美でいる。美しくあった」などでもよしとする)

※②のみでは加点無し※。

C (解答例) 3点

A ○2点 B ○1点

返事さえも しない。

「ポイント」

A 「返事さえも」(2点)

※「いらへだに」の現代語訳

① 「返事」は「返答・答え・応答」などでもよい。この意があれば【1点】。

② 右の①の意がある上で「だに」の訳「さえ」の意もあれば【2点】。

○ 「さえ」は「すら」でもよしとする。

※ 「も」だけでは※。

B 「しない」(1点)

※ 「せず」の現代語訳

※ 「(が)ない」では※。

問七 6点

(解答例)

A ○3点

「目見て心を奪われて、忘れられなくなった」

B ○3点

弁の君にもう一度会いたいと思ったが、会えなかったから。 (47字) (6点)

■ 表記・字数

・ 字数指定 50字。字数が少ないことによる減点はしない。

・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。

・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「目見て心を奪われて、忘れられなくなった」(3点)

○ 「弁の君を見て忘れられなくなった・弁の君に一目惚れした」などのように「弁の君を見て好きになった・一目惚れした」という内容が読み取ればよい。

△ 「見て」の意が読み取れない「弁の君を好きになった」などは△2点。

△「弁の君」の意が読み取れない「一目見て好きになった」などは△1点。

✕「見て」の意も「弁の君」の意も読み取れない場合は✕0点。

※「昨晚・格子の間から」などの意味の有無は不問。

B 「弁の君にもう一度会いたいと思ったが、会えなかったから」(3点)

①「弁の君に会えなかったから」の意が読み取れば【2点】。

②右の①の意がある上で「もう一度会いたいと思ったが・昨日と同様に見たいと思ったが・会おうとして同じ場所へ行ったが」などの意もあれば【3点】。

※「格子が下ろされていて」という意味の有無は不問。

問八 8点

(解答例)

A ○3点

世の中に全く嘘ということがないならば

C ○1点

実際にはこの世には嘘ということがあるので

B ○3点

信頼できそうにも思えるあなたの手紙ですが、

D ○1点

信用することはできません。(8点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定ナシ。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「世の中に全く嘘ということがないならば」(3点)

○「世の中に」は「男女の仲に」でもよしとする。

▲この意がない場合は▲1点減点。

○「嘘」は「偽り」などでもよい。

▲「全く」の意がない場合は▲1点減点。

○「全く」は「一切」などでも○。

B 「信頼できそうにも思えるあなたの手紙ですが」(3点)

○「信頼できる手紙だ・当てにできる手紙だ・信じられると思って手紙を見ているなど」の意が読み取ればよい。

※右の意がある時は「あなたの」の有無は不問。

▲「手紙」の意がない「あなたは信頼できる」は▲減点1「天1点】。

C 「実際にはこの世には嘘ということがあるので」(1点)

○「嘘はあるので」の意が読み取ればよい。「実際には・この世には」の有無は不問。

※要素Aが【0点】でない場合は、Aを受けていれば、「そうではないので」だけでも○とする。

D 「信用することはできません」(1点)

○「信用できない・あてにできない」などの意が読み取ればよい○。

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a と

b ついに

c まず

d おもえらく

「採点のポイント」

▲歴史的仮名遣いの場合には、▲減点1点。

例 b 「つひに」 c 「まづ」

※送り仮名の不足は0点。

問二 3点×3＝9点

(解答) X＝口 Y＝ホ Z＝イ

問三 3点×2＝6点

(解答) 1＝ハ 4＝ホ

問四 4点×2＝8点

(i) 4点

A○1点

B○1点

C○2点

(解答例) あげて いふ う ん からず (4点)

「採点のポイント」

△C「ん」からざる「は」は△1点

(ii) 4点

A○4点

(解答例) 数えきれないほどたくさんいた。 (4点)

「採点のポイント」

△「たくさんいる」だけの場合△2点

○「数えきれないほどだ」は可○。

(解答) 不伐其能歆其徳

「採点のポイント」

▲誤字は一字につき減点1点。

問六 5点+7点=12点

(i) 5点

(解答) 莫<sup>レ</sup>不<sup>二</sup>延<sup>レ</sup>頸願<sup>一</sup>交焉

「採点のポイント」

▲誤り一か所につき減点1。

(ii) 7点

A○1点

B○1点

C○1点

D○2点

(解答例) 朱家は、自分の能力や徳を誇らず、質素な生活をし、自分のことは後回しにして、

E○2点

他人の苦難を救ったから。(7点)

「採点のポイント」

A 「朱家は」(1点)

B 「自分の能力や徳を誇らず」(1点)

○ 「功績を自慢しない」「他人に施した恩徳に自己満足などせず」なども許容○。

C 「質素な生活をし」(1点)

○ 「贅沢をせず」など許容○

D 「自分のことは後回しにして」(2点)

○ 「わが身を顧みず」「命がけで」「果敢な行動」などどれかあれば可○。

E 「他人の苦難を救ったから」(2点)

○ 「窮地に陥った人」「貧しい人」など許容○

○ 「他者の危機」も可○。

△ただ「人を」救うは△1点。「窮地に陥った人」へ人の苦難を救う」となっていないと○にならない。

▲理由説明であるから、「ので」「から」「ため」などの文末表現が必要。ない場合は▲減点1点。

☆朱家の特徴を述べる「約束をまもる」「言葉に責任を持つ」など1点加算。(満点まで)

問七 1点×2＝2点

(解答) イ・ホ (順不同)